

令和6年度教育事業 ボランティア養成研修

- 1 趣 旨 青少年教育施設の役割を理解するとともに、
野外活動等の指導・支援ができるボランティア
及び指導者の養成・確保を図る。
- 2 期 日 令和6年6月1日（土）～2日（日）1泊2日
- 3 対象者 高校生・大学生（短大・専門学校生を含む）・一般
- 4 募集定員 40人程度
- 5 参加者 19名（高校生17名、大学生2名）申し込み：27名
- 6 指導者 鹿児島大学総合教育機構共通教育センター准教授 福満 博隆 氏
垂水市消防本部救急隊員2名
国立大隅青少年自然の家職員3名



7 日 程

6月1日（土）	6月2日（日）
9:00 受付・開講式	6:00 起床・寝具整理・清掃
10:00 講義「青少年教育施設における体験活動」	7:30 実習「ボランティア活動の技術」（野外調理）
11:40 講義「青少年教育施設の現状と運営」	9:00 実習「自然体験活動の安全管理」（普通救命講習Ⅰ）
12:40 昼食（弁当）	12:00 昼食（弁当）
13:30 講義「ボランティア活動の意義」	13:00 講義「青少年教育施設におけるボランティア活動」
15:20 実習「レクリエーション」	15:30 閉講式・解散
16:30 実習「ボランティア活動の技術」（野外調理）	
20:30 入浴・就寝	

8 事業運営上の配慮

- 体験活動について、講義と実習バランスよく学ぶことができるように工夫した。

9 参加者の感想

- ボランティア活動に興味がわき、実際に活動したいと思った。
- 仲間と協力して、多くのことを学ぶことができた。
- 実習と講義のバランスが取れていて良かった。
- 普段体験することのできない活動ができて楽しかった。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 事業終了後、法人ボランティアとして17名の登録があった。
- 学校、年齢、性別関係なく、交流を深めて活動に取り組んでいる姿が見られた。
- 参加人数の確保のために、大学と連携するなど、広報の仕方を再考する必要がある。

